

「朝になって、見ると、それはレアであった。それで彼はラバンに言った。『あなたには私に何とすることをしたのですか。私はラケルのために、あなたに仕えたのではありませんか。なぜ、私をだましたのですか。』」

創世記 29章25節

旧約聖書において神様は、「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と呼ばれている箇所があります。アブラハムは信仰の父、イサクは従順な人というイメージがありますが、どうも私はヤコブを好めず、狡猾な人という印象を持っています。

ヤコブは生まれる時に兄エサウのかたと《ヘブル語・アーケープ》をつかんでいたことから命名されましたが語源的にはアーカブ「押しの除ける」から派生した名前です。

長子の権利を奪ったヤコブは命かながら叔父ラバンの元へ逃げましたが、このラバンも狡猾な人物で、ヤコブが有能な若者であるのを見抜いて、この甥を最大限に利用したのでした。その一例が今日の聖書箇所

に書かれている妹娘を嫁がせると言いつつ、姉娘を与えた出来事です。

ヤコブは妹娘ラケルとの結婚のために七年間働きました。そしてめでたく結婚式の宴会が持たれたのですが、翌朝起きてみると横にいたのはラケルではなく、姉レアだったのでした。これはヤコブにとって信じられない出来事でした。彼はすぐにラバンのところに行き、こう言いました。

「あなたは私に何とことをしたのですか!」と。

原文では《マー・ゾッド・アスィータ》と書かれています。

これは創世記3章13節で、神様が禁断の実を食べてしまったエバに対して憤慨して言われたことばと一緒です。全能なる神様が人間の反逆(罪)に嘆いて言われたことばが、兄エサウを騙し、長子の権利を奪ったヤコブの口から出てきたのでした。

ラバンは涼しい顔で、それがこの地方のしきたりで、長女を差し置いて、次女を嫁がせることはしないと答えました。そしてこの婚礼が終わったあと、ラケルとともに女奴隷ビルハを与えると言ったのでした。でもこれには条件があり、もう7年間ラバンのもとで働くことになったのでした。その後、ヤコブは家畜たちのために6年働きます。通算20年、ヤコブはラバンの下で働きました。

ヤコブの苦節20年、それは彼が神の器とつくられるための大切な期間だったのです。

(穂谷)

【報告 消息】

■ 8月、9月の予定

・ホザナデイキャンプ

日程 8月9日(月)

講師 水梨郁河(ふみか) 師

会場 蒲田教会

・小学科アウティング

日程 8月27日(金)

場所 萩中プール

日程と場所が変更になりました。

・創立 87 周年記念礼拝

日程 9月5日(日)

説教 萩野牧師

第1礼拝と第2礼拝を行います。

・第 63 回シオン霊修会

日程 9月19日(日) ～ 20日(月)

会場 プラザヴェルデ コンベンション沼津

(J R 沼津駅徒歩、沼津シオン目の前)

講師 岩上敬人師 (JEA 総主事、インマ

ヌエル綜合伝道団)

テーマ「キリストのことばを豊かに」

【お知らせ】

『グリーンフケアについての学び』

日程 10月3日(日) 午後2時より

講師 有田モト子師

臨床心理士、横浜いのちの電話

スーバーバイザー

『グリーンフケア (green)』とは、深い悲しみや悲嘆、苦悩を示す言葉です。それは大切なものを失う喪失体験によって起こります。私たちの人生には様々な喪失があります。特に愛する人の死による別離は大きな悲しみを伴い心が傷つきます。そのような状態にある人に寄り添い、援助することを「グリーンフケア」と言います。

私たちはこの数年にいくつもの別離を経験しました。今回は学びの場ではありませんが、まず自分たちが慰めを知ることができたらと願っています。その先に誰かをケアする者へと成長させられるのだと思います。